

近森病院での 今後について

学術担当理事 土居 義典



4月1日付で学術担当理事として近森病院に勤務することになりました。よろしくお祈りします。

私は、1981年（昭和56年）4月の高知医科大学老年病学教室の創設と10月の附属病院の開院にあわせて大学に講師として赴任しました。以来32年近く大学で過ごしてきました。

当時、高知県は全国第2位の高齢県であり、高知県に多い、また我が国の二大死因の一つである心血管病の診療レベルの向上を図り、地元の高齢者医療、とくに循環器医療に貢献して県民

の期待に応えることは高知医科大学に課せられた使命のひとつでした。そのため私は、循環器内科を中心として、臨床に強い実力のある内科医の育成をめざし教室の活動を行ってきました。

これまでに多くの人材が育ち、近森病院をはじめ高知県内の主要な基幹病院で循環器領域の責任者として活躍するようになっています。

研究面では、国際レベルの研究を目指して「心筋症」の研究を行ってきました。その成果を踏まえて、私が班長として我が国の「肥大型心筋症の診療

に関するガイドライン」の2007年度版と2012年度版を全国の専門家と教室員の協力のもとに作成することが出来ました。

私は、中学2年の時に近森正幸理事長と出会い、以来友人として同じ中学、高校、大学で学びました。また1981年に帰高してからは、近森病院で週1回内科の回診を行ってきました。

これからの我が国の超高齢社会では、総合内科医として全人的に高齢者の多臓器疾患を見据えながら高度の専門医療を実践できる専門医の育成が重要となります。このような視点から、研修医や若手医師、また学生の教育の支援とともに、近森会の学術面での活動のさらなる活性化や、近森会と大学との連携などを視野に入れて、皆さまのお手伝いをしていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

どい よしのり

5月の歳時記

ランキュラス

近森病院
理学療法科理学療法士
主任 山口 真美



ランキュラスは幾重にも重なった、明るい花弁が魅力的な花です。キンポウゲ科の多年草で、ピンクや黄色、薄いオレンジなどの美しい色合いは、見ているだけで癒されます。花言葉は「光輝を放つ」「名誉」とあり、13世紀半ばに十字軍に参加したルイ9世が母親のために持ち帰ったという話も残っているそうです。

やまぐち まみ



絵・総務課
広報担当
公文幸子

土居義典先生



近森 正幸

この度、近森会の学術担当理事に就任していただいた土居義典先生は、中学、高校からの親友で、互いの家が近かったこともあってよく遊びに行き、夜遅くまでお酒を飲んでいて親父さんに怒られたこともあった。

大学だけは別々にとっていたが、結局同じ大学で下宿やアパートもほとんど一緒に大学生活を送った。先生はたいへん真面目な性格でベッドサイド（臨床実習）なども熱心に取り組んでいた。私の妻を紹介してくれたのも、6年間の交際の後に結婚できたのも、先生のおかげだと感謝している。

聖路加国際病院から大阪医科大学を経て高知医科大学（現高知大学医学部）と、循環器疾患に対する研鑽を積んできた。20年前のちょうど新館が出来て一年ほどたったころに、「教授に決まった」と電話がかかったときは涙が出るほど嬉しかったのを思い出す。

内科ではすでに浜重先生が内科のトップとして頑張ってくれていて、大学からは循環器の優秀な先生方が次々と来てくださった。先生の全面的なご支援のおかげもあって、いま中、四国でも有数のハートセンターとして全国に発信できている。

お酒が大好きであったが、ロンドン大学やマサチューセッツ大学に留学していたときに世界標準の医学に接して、このままではいけないと酒を断ち、学問に打ち込まれたと推察している。

これからは近森会の学術的な充実、フリーの立場で先生の力を活かしていただきたい。これからはみんなで海外旅行に行ったり、ワインも飲んで楽しく人生を送ってほしい。

理事長・ちかもり まさゆき

近森病院研修医修了式



平成24年度 近森病院 研修医修了式および懇親会

3月22日に平成24年度近森病院初期研修医修了式が行われました。初期研修医7名の先生と出産、育児のために同期から4カ月遅れで研修修了した山本亜希先生が修了となりました。院内外の指導医の先生方にも参加いただき盛大な会となりました。

今年も研修先の部長から研修医に「がんばったで賞」が贈られました。副題もユニークで「あんたが大賞(勝又先生)」「立派なお母さんで賞(山本亜希先生)」など、楽しいエピソードと共にそれぞれの研修医に贈られました。後期研修先として近森病院、高知県内の他病院、県外の出身大学に帰った先生など、それぞれの進路がありますが、みんなの医師としての将来を楽しみにせずにはられない素晴らしい式になりました。

消化器内科科長 近森 正康



楽しかった!

あき 山本 亜希 H22 年度就職



研修を一言で言い表すとすれば、「楽しかった!」でしょうか。近森病院の研修は廃人になるという都市伝説が未だに残っているようです。しんどいなと思うこともありましたが、サポートを受けながら可能な限りやりたいことをやりたいようにチャレンジできる研修でした。途中、妊娠や出産もありましたが、復帰から研修終了までサポートしていただき、本当に感謝の気持ちで一杯です。これから研修の先生もぜひ楽しんでください。

引き続き内科医として

おおかわ よしひろ 大川 良洋 H23 年度就職



とても充実した研修を送ることが出来ました。分からないことだらけで、多くの先生方やスタッフの方々にご迷惑をおかけしたと思います。4月からは内科医として、引き続き近森病院で勤務することになりました。1年ほどかけて内科のさまざまな科をローテーションさせていただきます。また、たくさんの方々にお世話になるとは思いますが、これからは少しでも力になれるように頑張りますのでよろしくお願いします。

苦い経験から財産を

かつまた よしふみ 勝又 祥文 H23 年度就職



初めは不安がいっぱいで自転車をこぎ、通勤していたのを、思い出します。初めて病棟に出た時には、CCUで血ガスさえもとることができず、ただ流れ出る冷や汗を抑えるので精一杯でした。数多くの失敗や、苦い経験から大きな財産を得ることができました。社会人としての一歩を近森病院でスタートすることができよかったと思っています。3年目は幡多けんみん病院で修行を積むこととなりました。幡多地域の医療に貢献できるよう頑張ってきます。

恩返しができるよう

たい りゅうた 田井 龍太 H23 年度就職



非常に内容の濃い研修で、指導医の先生方、コメディカルスタッフの方々に教えていただき、少し成長できたと思います。キャラクターの濃い仲間と過ごせたのも充実の要因ではと思います。後輩の研修医が増えて、指導をする立場になり、いい刺激を得るとともに、より一層勉強をするようになりました。4月から心臓血管外科で後期研修をさせていただきますが、少しでも近森病院に恩返しをし、高知の医療を支えていけるようになりたいと思います。

日本一の研修

だて けいいち 伊達 慶一 H23 年度就職



できる研修医になったかはわかりませんが、日本で一番楽しい研修を送ったと自信を持っていきます。楽しいというのはやりがい、忙しさ、チーム医療、コメディカルとの連携、患者さんへの想い、垣根の低さ、offの充実、総合して日本一だと思っています。私は今年度から高知医療センターにいますが、ひとりの高知医療人として尽力したいと思っています。近森スピリッツを忘れず、今後がんばります! お世話になりました。

ほんとうに幸せでした

とくしげ ひでまさ 徳重 秀将 H23 年度就職



近森病院で過ごした2年間はほんとうにあつという間でした。指導の先生方、コメディカルの方々にはほんとうにお世話になりました。どうもありがとうございました。症例検討会の浜重先生語録の「ばかやろう〜だね」は厳しくも温かいひとことでしたし、近森で研修することができてほんとうに幸せでした。4月からは高知医療センターで産婦人科医として高知県の周産期医療に貢献できるように精一杯頑張っていきます。2年間本当にありがとうございました。

誰かの大切なひとだと

もりおか しおり 森岡 汐里 H23 年度就職



あつという間に過ぎてしまい、とても名残惜しいです。県外の大学を卒業後、近森病院で研修を始めました。診療を通して地域の方々と関わることで子供の頃とは違った目線で地域を捉えることができましたし、当たり前ですが、患者さんは誰かの大切な家族や友人だと深く実感できました。日々関わった全ての方にお世話になり、多くのことを学ばせていただきました。これから、ここで得たことを忘れず精進していこうと思います。ありがとうございました。

これからの糧として

やまかわ やすゆき 山川 泰幸 H23 年度就職



初期研修が終わりましたが、まだ実感はなくあつと言う間の毎日でした。研修の経験をこれからの医師人生で糧としていけたらと思っています。地元で働けたこともうれしく思っています。4月からは高知大学で耳鼻咽喉科医としてスタートしますので、今後ともよろしく願います。今回の研修が有意義に過ごせたのも、周りのスタッフの助けがあったからだと思っています。ご指導いただきました先生方には深く感謝しています。

信念を持って積極的に

こづき ひろき H24 年度就職 古月 拓己 たすきがけ



印象に残っていることは2年目の先輩方の積極性です。公の場で我先にと手を挙げて質問したり、自分の意見をいったりするのを見て、世の中で成功する人ってこういう面の皮の厚い人達なのかと、感心しました。自分は比較的緊張しやすい性格で、人と接するときも引っ込みがちではありますが、将来、多かれ少なかれ人を動かす立場になるでしょうから、今からある程度、信念を持って積極的に行動したいと思っています。

忙しさのなかで

しおた なおふみ H24 年度就職 塩田 尚史 たすきがけ



高知大とのたすきがけで研修しました。最初は戸惑うことばかりでしたが、徐々に成長を実感していきましました。麻酔科、整形外科、ER、循環器内科、消化器内科とローテーションしました。特に内科と救急が中心で、近森病院ならではの忙しさのなか多くの経験をし、勉強になりました。迷惑をかけたことも多々ありますが、同期の研修医や指導医の先生方、コメディカルの方々などに助けをいただきました。無事に乗り切ることが出来ました。今後とも頑張っていきたいです。

簡単パエリア

臨床栄養部
管理栄養士
主任 内山 里美
関 香代



今回はパエリアをご紹介します。パエリアはバレンシア語で「フライパン」を意味します。米と野菜、魚介類、肉などを炊き込んだ料理で、スペインを代表とする世界的に人気の料理の一つです。

味付けは塩こしょうくらいで、あとは材料から出るうまみがおしさを引き立てます。高知は新鮮な野菜や魚介が手に入りやすいので、お好みの材料を入れてアレンジしてみてください。きっとおいしいパエリアができるはずですよ。

材料 (1人分)

オリーブ油	大さじ 1/4
シーフードミックス	1/4 袋
にんにく	1/4 かけ
玉ねぎ	1/8 個
米	1/2 合
ピーマン	1/4 個
塩、こしょう	少々
プチトマト	1.5 個
インゲン	1 本

スープ (A)

コンソメスープ	1/2 カップ
ターメリック	小さじ 1/8

※本当はサフランを使用しますが、ターメリックでも代用できます。

作り方

①シーフードミックスは解凍しておき、にんにく、玉ねぎはみじん切りにし、ピーマンは角切り、プチトマトは半分に切る。インゲンは塩をまぶして板ずりをし、斜めに切る。

②フライパンにオリーブ油をいれ、シーフードミックスを炒めて皿に取り出しておく。残りの油でニンニク、タマネギをいれて炒め、さらに米を加えて炒める。

③米が全体に透き通ってきたら、ピーマンを加え、塩、こしょうで味付けし、(A)を注ぎいれて加熱する。沸騰したらプチトマト、インゲンを上に置いてからフタをし、弱火で15分煮る。②のシーフードミックスを上に置き、3分蒸らして完成。

うちやま さとみ / せき かよ

「看護実践が見える看護記録」を開催して

看護の未来を肌で感じ

近森病院看護部長
久保田 聡美



3月12～15日の間、皮膚・排泄ケア認定看護師の草分け的存在の渡邊千登世先生に来ていただきました。先生は、認定看護師としての実践、指導、相談に留まらず、看護管理者としてのマネジメント、看護記録、電子カルテに関する造詣も深い方です。

「看護実践が見える記録」がテーマ

の院内向けのミニ勉強会と地域医療講演会と合わせて3回もの熱い講義を通し、自分たちの実践を記録に残す意味と責任について、再確認できました。そして、この四日間は、記録の講義にはじまり、先生の持つたくさんの引き出しから多くのスタッフが刺激を受け、自分たちが目指す看護を語ることができました。

看護部長としては、近森病院の看護の未来を肌で感じてわくわくする時間でした。 くらた さとみ

院外エッセイ

小さければカビ 大きければきのこ

島崎 俊弘

しまさき としひろ 1947年7月27日生まれ。2007年(株)モリチップを退職。1996年の10月15日には「森ときのを愛する会」を設立し会長に就任現在に至る。趣味は囲碁5段、野生きのこ観察。昆虫なかでも攻撃してくる蜂が好きで、それが嵩じて現在は日本みつばち育てている。



地球上にきのこが無いと、さほど時を経ずして地球は滅びてしまいます。地球の循環は、生産者である植物、それを消費する動物、その全てを分解する菌類から成り立っています。きのこが無ければ、あらゆるものが腐らずに死屍累々の寒々とした光景が目に見えてきます。

種駒を打ち込んだホダ木に発生する椎茸は食材として欠かせませんが、椎茸が好む養分が無くなれば、ウラボニガサなどのきのこが発生します。さらにチャナメツムタケなど、次々と養分を摂取するきのこが発生し、最後にホダ木は「土」に戻ります。

食べ物には厄介者のカビが発生します。実はこのカビもきのこの仲間です。腐るのは困りますが、腐らないうちにいつまでも残っても困ります。小さければカビ大きければきのこですが、その大きさの境界線ははっきりしていません。

30年ほど前には、高知では野生きのこを採る習慣はほとんどありませんでした。ですから、今「きのこ狩り」を始めるときは独壇場だろうと勝手に決め込んで、一冊の図鑑を丸暗記してきのこ採取を始めました。

きのこにはさまざまな個体差があり、図鑑と照らし合わせても慣れないうちの同定は困難です。それでも根気よく続けていると、あるとき目から鱗が落ちるように絵合わせができます。

5千種類以上あるといわれていますが、多くは食毒不明のままです。致命的猛毒菌をはじめ胃腸系や神経系などさまざまな中毒症状がありますが、私は二度の中毒例があります。きのこ狩りを始めて間もない頃、筒上山の登山道で採取した白いきのこは自律神経に作用して汗と唾が10時間ほど続きました。慌てふためいたが事なきを得た苦い思い出です。

二度目は中枢神経に作用するきのこで、ごく小さいきのこ3本を澄まし汁にしたところ、さまざまな幻覚症状が現われました。壁が噴煙のようにモクモクと迫り、カーテンの隙間に差し込む夕日は真っ青、瞳孔は開き足元はふらつく。4時間ほどで治まりましたが、インフルエンザで投薬されるタミフルの成分とよく似ているようでした。強毒というより、自虐的行動に注意を要するきのこといえるようです。何事も、生兵法は大怪我の元です。



核医学検査 (RI) No.1

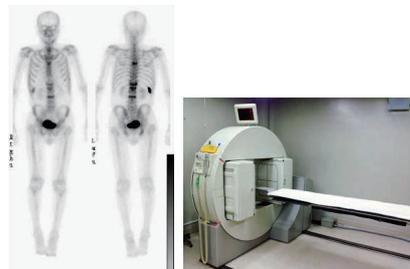
近森病院 画像診断部
診療放射線技師主任 中村 伸治

核医学検査は、ごく微量の放射能を含んだ薬を用いて、病気の診断をする検査法です。

体内に投与された薬の分布を写真にしたり、グラフにすることで、病気の診断、血流や代謝などの機能情報を早期に捕らえる事が出来ます。また、検査に使用される薬の放射能も半減期が

短いため、放射線による被ばくも少なく、苦痛も少ない低侵襲の検査です。

近森病院では、平成7年7月より検査を開始しています。当時は核医学検査がアナログからデジタルへの移行期で、当院に導入された装置は、島津社製 PRISM2000 でした。二つの検出器を持ち、全身の二方向同時撮影や

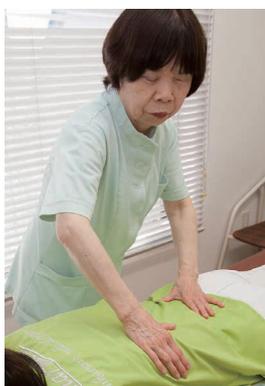


SPECT 撮影、ダイナミック撮影に対応し、その当時としては計算速度の高いコンピューターを搭載していました。

しかしながら装置の老朽化、メーカーのサポート終了等の理由から、RI室の外來センターへの移設に伴い廃棄されました。

※次回は新しく導入された
GE 社製 Discovery NMCT670 について
なかむら しんじ

多くのひとに支えられて 43年 松沢稀弓さん、お疲れさま



物療師の松沢稀弓さんは、38年間は患者さんに対し、最後の5年間は職員に対して施術を行なって、今回、定年退職となりました。施術した後「身体が軽くなった」とお礼をいってもらったことが、とても嬉しく励みになった。目の不自由な松沢さんは、「通勤の行き帰りにいるんなひとに手を貸してもらったり、多くの温かいサポートがあつていままでも頑張ってきた」とのこと。これからは、趣味の社交ダンスをしたり、自分の時間をゆっくりと大切に過ごしたいそうです。お元気で！

国澤部長より●松沢さんとは四半世紀の付き合いになります。最初の印象は物静かで淡々と仕事をされる方で、すごく自分を持っていて周りに対する気遣いも素晴らしい方だと思いました。職員への福利厚生も担っていただき、感謝しています。

職員旅行 南フランスのセラヴィな日々

陽光きらめく南仏プロヴァンスに別れをつげ、軽く思い出気分荷物をもとめて早朝空港に出発したところ、経由地パリがまさかの大雪。どうなる、仕事は家族は、連絡は……。しかしそこで理事長はじめみんなの落ち着いた態度、伊達に日々激動のなかを生き抜いていない対処能力。に励まされ、添乗員さんの力もあいまって、結果じたばたせず帰国を信じて楽しもうという機運に。仕事の上でも大いに学びとなったのでした。



3月30日土曜日、21人の近森っ子が元気に卒園しました。



ありがとう！ エッペン！ お着物で！ 修了証をもらったよ

ハッスル研修医

freedom & flexibility
をモットーに



研修医 古曾部 和彦

縁もゆかりもない高知県にきて早一年、おいしいご飯とお酒に毎日飲まれています。一年前は社会人になりたてかつ異国の地で働くことに不安がいっぱいでしたが、素晴らしい同期や先生、コメディカルの方々のおかげで毎日楽しく研修させていただいております。

大学生の頃は水泳をやっており、働き始めてからマラソンも始めました。そして、死ぬまでに一度は出たいと思ってた石垣島トライアスロンへ4月14日に出場してきました。練習期間があまり取れず、とてもしんどかったのですが何とか完走することができました。体力的にも精神的にも一皮むけたと思うので、これを研修のほうでも発揮していきたいと思っています。

一年間でたくさんの知識を教えてくださいましたが、まだまだ未熟者で迷惑をお掛けすると思いますが、近森病院のマークの意味である freedom & flexibility をモットーに日々精進していきますので、これからもよろしく願います。
こそべ かずひこ

■ 高知中央医療圏脳卒中地域連携の会 ■

第 22 回合同会合の報告

高知中央医療圏
脳卒中地域連携の会事務局
近森病院脳神経外科部長 高橋 潔



れていました。

後半は綾川町国民健康保険陶病院院長の大原昌樹先生から維持期や在宅からみた連携の視点を中心に講演をお願いしました。ケアマネ協議会の香川県の会長を兼ねておられ、ケアマネの視点からもいろいろ教えていただきました。
たかはし きよし

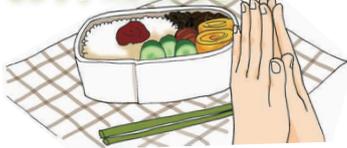
地域連携パスの22回目の会合を2013/3/17 高知医療センターくろしおホールで行いました。多職種、多施設から計131名の参加がありました。今回は遠く石川県からも脳卒中連携パスの視察に参加がありました。

前半部分で高知中央医療圏脳卒中地域連

携パスの昨年度の使用状況を事務局から提示しました。昨年度は1780例の脳卒中のうち725例41パーセントの患者さんが連携パスを用いて情報共有が行わ

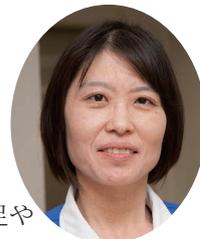


お弁当拜見 13



ハートがいっぱい! フレイフレー1年生

障害者福祉サービスセンター
ウェブ支援員 根木 紀佳



この春、我が家の娘はピカピカの1年生になりました。新学期が始まるまでの1週間は児童クラブにお弁当を持って通っていました。期間限定のお弁当作りでしたが新しい慣れない環境で頑張ってもらいたいと思いながらのお弁当作り。自分が仕事の時手抜きで簡単に作るのですが子供のために作る時はちょっぴり気合いが入ります。

今まで保育園では遠足や園外保育の時だけお弁当でした。いつもお弁当へのリクエストを聞くと「おかずはミートボールと卵焼きと夜ご飯の残りでもいいよ」と言ってくれるので助かります。そして「おにぎりと卵焼きはハートにしてね」と定番ハート弁当のリクエスト。おかずは特別なものは作れませんが盛りつける



時に卵焼きをハートにしたりおにぎりをハート型に握ったりとひと工夫して見た目をかわいくしています。そしてパプリカやのりをハートに切ったりとハートがいっぱいになるのですがいつも「かわいい」と喜んでくれるので嬉しいです。
ねぎ のりか

■「ERCPパス大会を開催して」■

バリアンスの発生要因と ミラクリッドの膵炎予防投薬の可否

近森病院消化器内科部長
岡田 光生



ERCP とその関連手技は胆膵系の精査のほか、胆道ドレナージや胆石の摘出などの治療を低侵襲に行うことが可能ですが、ひとたび偶発症をおこすと重篤となり得ます。そのため、インフォームドコンセントの充実、ケアの標準化、

知識の共有が必要と考えパスを作成しました。しかしながら、バリアンスの発生が多く、パスが使用しづらいと不評でした。

今回のパス大会では医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医事課、システム管理室からパスの現状や問題点などについて発表してもらい、活発な意見交換が行われました。平日に院内で開催されたため、近森病院の職員の参加が多く活発な意見交換がしやすかったと思われま

す。バリアンスの発生要因、ミラクリッドの膵炎予防投薬の可否が検討の中心となりました。今後のパスの改定に活かしたいと思います。

おかだ みつお

■ 第2回日本笑い学会四国支部研究会 ■

「笑いの作用」を体感

近森オルソリハビリテーション病院
6階病棟看護師 池永 利江



▲枝廣先生、古今亭菊志さん、著者 ▲右が笑いヨガを行う枝廣先生

3月20日、近森病院では2回目となる、日本笑い学会四国支部研究会が 開催されました。第一部は豊岡台病院院長、精神科医

の枝廣篤昌先生に ▼古今亭菊志さん

「笑いのチカラと健康」をテーマに、様々な学術研究から明らかになった誘引作用、親和作用、浄化作用、開放作用について講演していただきました。第二部では、東京を中心に活躍する江戸落語家、古今亭菊志さんに落語を演じてもらい、参加者の皆さんに「笑いの作用」を体感していただきました。



最後に枝廣先生のレクチャーで「笑いヨガ」を行ないました。参加者の方々から「楽しく学べ、自分の職場でも実践したい」と大好評でした。充実した会となり、参加者の皆さん、スタッフの皆さんに心からお礼申し上げます。次回も企画中です。ぜひご期待ください。

いけなが としえ

ワイン講座 ● 11

ワインの王様 ブルゴーニュ その2

畑について

ブルゴーニュ地方の生産者を訪ねると、ほとんどの生産者はまず畑に案内してくれます。そして日当たりの良さや土壌の違い、自分たちの畑やぶどうの樹がいかに入念に手入れされているかを誇らしげに語ってくれます。

異国の地で想像していた華やかなワインのイメージとはかけ離れていましたが、現地に行く、現場を見ることの大切さを痛感し、ワインは農業の延長線上にあることを改めて認識し、考え方が大きく変化しました。

ボルドー地方は生産者が格付けされているのに対し、ブルゴーニュ地方の特徴は畑が格付けされていることです。しかし、

ジュヴレ・シャンベルタン・ラヴォー・サン・ジャック・ブルミエ・クリュ/生産者:ジェラル・ラフェ/生産地:ブルゴーニュ、ジュヴレ・シャンベルタン村/「ジュヴレ・シャンベルタン」村の「ラヴォー・サン・ジャック」畑のもの。ここは、ブルミエ・クリュ(1級畑)。所在地がワイン名になっていると考えても分かりやすいかと思います。

その畑には、たくさんの所有者が存在し、同じ名前で作られるワインのスタイルや品質、そして価格はさまざまなのです。

よく知られたワインや高名なワインだと、つい安心して手に取ってしまうことの多い日本人ですが、ブルゴーニュの畑や生産者の事情を知ってしまうと、手に取るワインも、きっと変わってくるのではないのでしょうか。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



回復期リハビリテーション研究大会に参加して

すばらしい刺激を受けて

近森オルソリハビリテーション病院
5階病棟看護師 筒井 ますみ



去年4月から1年近く取組んできた看護研究を、回復期リハビリテーション病棟協会の第21回研究大会で「整形外科回復期病棟における自宅復帰困難な患者の要因分析」と題して発表させていただきました。

今年は金沢で3月1日から2日間開催され、参加者約2千人、会場も3カ所11会場と大規模なもので、一般演

題が656題、基調講演、教育講演、シンポジウム、ランチョンセミナーなどと盛りだくさんの内容でした。

私は今回が初めての参加であったため、あまりの参加者の多さと会場の大さや多さに驚き、発表ではパワーポイントを操作する手が震えてしまい、「間違っ

た安でいっぱいでした。これまで取組んできた成果として、無事発表できたことで、満足感と達成感を得て貴重な経験をすることができました。

また、発表以外にも教育講演や他の病院の研究発表を聞くことで頭をフルに使い、良い刺激を受け、他の病院の取り組みなども知ることができて勉強になりました。

研究会では近森リハビリテーション病院のスタッフがあちこちの会場で座長を務めており、同じ近森会グループとして誇らしい気持ちでした。

最後に、今回の研究に際し指導していただいた井上郁先生始め、高知県立大学の井上正隆先生、協力してくださった近森オルソリハ病院鄭明守院長、病棟スタッフの皆さんにこの場をかりて深謝申し上げます。 つつい ますみ

第2回黒潮整形外傷カンファレンス

上腕骨近位端骨折と脛骨近位端の骨折をテーマに



近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人

会場風景▶

◀発表する西田先生

3月23日(土)管理棟3階大会議室において「第2回黒潮整形外傷カンファレンス」を開催しました。今回はテーマ1-上腕骨近位端骨折、テーマ2-脛骨近位端骨折として昨年同様5題ずつの演題が出されました。

国内有数の外傷治療の猛者10名にケースプレゼンターをお願いし、ディスカッションを仕切る座長も熟練のマイスター2名に来ていただいたこともあり、日本全国から86名のドクターと20名のコメディカルの方々計106



名のご参加をいただきました。

当日は期待通りのハイレベルな討論が活発に繰り広げられました。最後に富山県厚生連滑川病院副院長の南里泰弘先生のご講演をいただき、盛會に終えることができました。来年もこの時期に企画する予定です。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

きぬがさ きよと

AO Fellowship unit を通じて
イギリスより研修に来られました。

貴重な経験の数々

Dennis Kosuge



衣笠整形外科部長と右デニス・コスゲ

何が起こるか分からないまま到着した高知。AO Trauma Fellowship (AO Trauma 留学研修制度) の選考をパスし、多くの候補国から日本を選びました。私と近森病院との関係の始まりです。「なぜ高知なのか?」、私にも日本人の血が流れているがゆえの単なる好奇心……ですが、これこそが忘れがたい高知での4週間へと導いてくれたのです。

整形外科の観点からも、イギリスと日本の違いを学んだことは非常に貴重な経験でした。文化的な違いが医業にどれほど影響するか、日本の医療システムについて学び、それがイギリスの National Health Service (NHS) といかに違うのかを知り、たいへん興味を持ちました。明らかに体格面の差について、手術、例えば、術野や人工移植物のサイズなどへの影響

のほどを知ること。

最も目をみはったのは、衣笠部長のオペ中の注意深く繊細な軟部組織の扱いと手さばきです。彼の哲学は、部署内の全メンバーに非常に良く浸透し実践され、ここでの経験が私自身の軟部組織の取り扱い技術を磨く向上心の動機付けとなっています。近森病院の多職種による専門的なチームアプローチを見たことも素晴らしい経験でした。イギリスでは一般的なこの体制も、日本ではさほど普及していないという点から、開拓者的取り組みに大変心打たれました。

さらに我々が直面している整形外科的チャレンジが、日本でも問題となっていることを知りました。例えば、限られた資源

や人材に対し、質の高さを要求する環境でのオベ患者優先順位などの考え方について。常にペイシエントケアのよりよい方法を探っている我々臨床医には、様々に意見交換ができたことは非常に価値のある貴重な経験でした。

上記に加え、さらに重要だったのは築くことができた友好関係です。私と話をする時間を割いてくれた皆さんや、とくに毎日のように誘ってくれた整形外科ジュニア(ドクタータカ、'キング'カズ、オッディー、タッチ、リンくん、トモオ) たちに感謝を言いたい。何度も行ったカラオケで聴いた、日本の歌をダウンロードしました。ロンドンで聴くその歌は、高知の時間を思い出させてくれるはずで

私は、ほんとうに生涯の同僚と友人となる素晴らしい人たちに会いました。近い将来、ロンドンでお会いできたらと思います。素晴らしいホストであった近森病院に感謝、皆さんとの別れを惜しんで。

デニス コスゲ

日本語訳: 中岡大士科長(呼吸器内科)
山下永利子秘書(放射線科)

乞！熱烈応援

充実した日々に感謝

近森病院整形外科科長
井ノ口 崇



卒後6年目のことです。宮崎で自治医大卒業後のお礼奉公中に日本骨折治療学会で衣笠先生のことを知り、約4年間の遠距離片思い(?)を経て就職し、はやいもので1年半が経ちました。充実した日々感謝しています。先輩方の骨折治療に対する熱い情熱におどろきつつ学んできた1年半。衣笠先生は「自分が幸せでなければ、他人を幸せにできるわけがない」「いい仕事をたくさんして、患者さんが幸せになり、且つ病院経営に貢献するようにしよう」といいます。これから益々精進して、若手を引っ張っていく存在でありたいです。 いのくち たかし

周りを支えられるよう

臨床栄養部近森病院栄養科主任
和田 早織



社会人1年目からこれまで、いくつもの病棟でお世話になり、たくさんの人に支えていただきながら頑張ってきました。まだまだ未熟な自分に主任を務まるのか……、とかなり不安ですが、今度は私も、微力ながら周りを支えられるよう頑張りたいと思います。先日、「現状維持は後退だ」という言葉を耳にし、衝撃を受けました。思いやりの心を忘れず、患者さんの立場に立った栄養管理を丁寧に行っていくよう、スタッフと協力しながら、前進していきたいと思っています。 わだ さおり

先人達の教を護り

臨床栄養部 近森病院栄養科科长
佐藤 亮介



当院のNST活動も10年以上の歳月が過ぎ、当部署も30名を超す大所帯となりました。5名足らずの管理栄養士で始まった、当時のNSTのことを知るスタッフも少なくなりましたが、現在の臨床栄養部の体勢は、先輩が築いてくれた大きな財産です。一方、近森病院の5か年計画も後半を迎え、更なる転機を迎える時でもあります。変革期ともいえるこの時期に科長心得を命ぜられ、その重責に身の引き締まる思いです。時代の潮流を滞らせることのないよう、先人達の教を護り、後進の指導そして部署の円滑な運営のため尽力したいと思います。 さとう りょうすけ

一歩ずつ確実に

近森病院6C病棟 看護主任
濱田 智恵



この度、辞令をいただき、身の引き締まる思いです。近森会に就職して十数年。あっという間の年月でした。こうして仕事を続けてこられたのも、今までお世話になった師長さんや主任さんを始め、周りのスタッフの方々の温かいご指導や支えがあったからこそと深く感謝しております。まだまだ未熟な自分が責任ある役割を果たしていけるのか不安でいっぱいですが、少しでも周りのスタッフの力になれるよう日々努力をし、一歩一歩、主任として成長できるように頑張っていきたいと思っています。 はまだ ちえ

潤滑油で！！

近森病院北館3病棟看護部
介護福祉士長 山中 由美子



介護福祉士制度ができて20数年、近森会でも介護福祉士が勤務し始めて20年が過ぎました。また急性期看護補助体制加算が診療報酬で算定されるようになり、看護補助者も100名を超える大所帯となっています。

今回の辞令を受けて、責任の重さに不安もありますが、それぞれの職種が誇りをもって患者さんに良質なケアを提供できるよう、皆が困難さや壁にぶつかった時は「潤滑油」となり、共に成長していきたいと思っています。

どうかよろしく願いいたします。

やまなか ゆみこ

5歳の私に恥じないように

近森病院5C病棟 看護主任
塚本 綾



「そんなに泣いたらお母さんにあわさんぞね」これは私が5歳頃に大ケガをして近森病院へ運ばれ、手術室で泣き叫び暴れる私に看護師さんがいった一言です。あれから20年、いまだに忘れることができません。この言葉のおかげで「こんな看護師にはならない」と近森病院で仕事をすることが夢となり看護師を目指しました。主任という役目をいただき、皆さんの力を借りて少しでも成長ができるように頑張りたいと思いますし、5歳の私に恥じないような看護師になりたいと思っています。 つかもと あや

● お知らせ 医療従事者対象 ●

- ◆第 23 回北部地域医療カンファレンス
「在宅医療における職種間の連携について」
～現状と課題～
日時：5月31日(金) 19:00～20:30
会場：高知市保健福祉センター 3階
主催：社団法人高知市医師会
北部地域医療カンファレンス実行委員会
- ◆第 111 回地域医療講演会(仮)
「遠隔成績と手術侵襲からみた
大動脈外科の現状と展望」
日時：7月26日(金) 19:00～
会場：高知パレスホテル(予定)
講師：名古屋大学大学院心臓外科教授
碓氷章彦先生

● 編集室通信 ●

『お弁当拝見』コーナーで、お弁当に込められたいろんな“想い”に間近に触れ、感化されて自分もお弁当を作るようになった。自炊が増え、野菜を摂るようになり、スーパーでは「お弁当のおかずになるかも」と普段手に取らない食材にも目を凝らすようになり……、小さなお弁当が生活に変化をもたらしている。因みに「弁当」の語源は「好都合」「便利なこと」を意味する中国の俗語からきているそうだ。(ブン)

2013年3月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,018人
新入院患者数	819人
退院患者数	847人

近森病院

平均在院日数	14.19日
地域医療支援病院紹介率	88.75%
救急車搬入件数	457件
うち入院件数	234件
手術件数	405件
うち手術室実施	276件
→うち全身麻酔件数	156件

● 平成 25 年 2 月度県外出張件数
件数 71 件 延べ人数 162 人 ●

● 図書室便り (2013年3月受入分) ●

- ・SARRAFIAN'S Anatomy of the Foot and Ankle 3rd ed / Armen S. Kelikian (Editor)
- ・待てる外来：苦痛軽減・時間短縮 待ち時間対策 19 病院の事例集 いつまで待たせるの!! と言わせない!! / 日総研グループ(編)
- ・標準採血法ガイドライン GP4-A2 approved guideline / 日本臨床検査標準協議会標準採血法検討委員会(編)
- ・指導しなくても部下が伸びる! すべてのプレイングマネージャーに捧ぐ“結果が出せるチームづくり”の行動習慣 72 / 生田洋介

- ・統計学が最強の学問である / 西内啓
- ・JAL 再生 高収益企業への転換 / 引頭麻実
- ・「粗にして野だが卑ではない」石田禮助の生涯 / 城山三郎
《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ 漢方医学の進歩と最新エビデンス / 渡辺賢治(編)
- ・別冊 医学のあゆみ 肝硬変 Update 一肝硬変死の根絶をめざして / 西口修平
《視聴覚資料》
- ・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.20 No.1 / 永田泉(他監修)